

「ユビキタス時代の歩み方講座」第7回 2007/1月号

「より良き社会へ向う力 社会起業家の存在」

速水 智子

<http://www.hayamizu.jp>

みなさま、明けましておめでとうございます。新春をお健やかに迎えのことと思います。ユビキタス時代の歩み方講座も7回目となりました。

これまで、情報時代といった側面から社会の変化について眺めてまいりました。今回は、新しい年にふさわしい、未来への可能性につながる話題をとりあげてみます。これは、現在、私が経営学の博士課程で研究しているテーマの「社会起業家＝ソーシャルアントレプレナー」という社会的活動と事業運営を両立させている、新しいタイプの起業家についてのお話をしたいと思います。

社会的活動というと慈善事業やボランティア、寄付活動などを想像し、これらは、一見、ビジネスとは異なる世界のように考えられています。

しかし、これから述べる社会起業家はこれらの異質とも思われる世界を結びつけることのできる社会改革の担い手でもあります。

社会的活動の実践

さて、日本の歴史をひもといてみますとその社会的活動の実践者として聖武天皇の後の光明皇后のお話はとても有名です。施薬院を造り自らの財で薬草を集め、病いの人々に施したことや貧窮者の救済を目的とした悲田院の設置は、日本人にとって忘れがたい話です。その絵巻物に残る、皇后自らが病者の背に手をふれる慈愛に満ちたお姿は、時代を超えて見る者に深い感銘をもたらすものです。

これまで世界中の歴史のなかで、志を持つ人々によって、様々な形で、社会貢献というものが果たされてきました。しかしながら、これまでは社会活動というものは恵まれている者や裕福な人々によって行われる寄付や慈善事業が主流と考えられてきました。しかし、近年、市民活動がその大きな役割を果たし始めています。すでに社会活動というものが特別なものではなく、一般の人々の身近な活動との認識が広がってきたと思われます。

ビル・ゲイツさんの驚く決断

皆様ご存知のようにこの講座でも取り上げたマイクロソフト社の創業者ビル・ゲイツさんが昨年6月びっくりするような発表をしました。それは、企業運営から退き、2008年から“ビル・アンド・メリンダゲイツ財団”の仕事に専念すると宣言したからです。世界中の人々を驚かせました。なぜなら、世界のお金持として大成功したベンチャー起

業家はその土俵であるビジネスの最前線から退くことに加え、ビジネスとは対極にある社会的活動を目的とする非営利組織の“財団”に活動拠点を移すという点で驚くべきものがあったからです。

ナンバー 1 とナンバー 2

この財団は、世界の保健衛生、教育、図書館の3つの分野に力を入れる世界で一番大きな財団です。ゲイツさんの発表10日後、投資会社のトップとして、世界で二番目のお金持ちのウォーレン・バフェットさんがこの財団になんと約3.5兆円を寄付すると発表しました。ちなみに現在、この財団の3人のプレジデントのうち一人として、山田忠孝さんというシニアの男性がその任務を引き継いでいます。社会貢献事業を行う世界最大の組織に日本人がトップリーダーとして活躍していることに、誇りを感じますね。

さて、数々の話題をもたらした財団という非営利組織の活動が一般にも、注目されるようになってきました。

非営利組織の台頭

特に、ここ数年、先進諸国を中心として、非営利組織の台頭はめざましいものがあります。日本においても1998年に特定非営利活動促進法（NPO法）という法律が制定され、多くの人々がNPOを作り、さまざまな活動をしています。非営利組織とは広い意味では、営利を目的としない公益団体、NPO(Non-profit organization)やボランティア組織、市民団体をさします。

非営利組織では、自らの収益事業で利益を得た場合でも構成員に分配せず次の活動資金として繰り越していきます。しかし、全体的に経営状態は苦しいものがあり、日本のNPOの場合はそのほとんどが会費や助成金に頼っています。自主的な事業運営で成果を収めているところは、ほんのわずかというのが実情です。

ロザンヌ・ハガティエさんの卓越した手腕

そのような中、欧米ではパワーあふれる民間非営利組織の活躍が見られるようになってきました。例えば、米国のロザンヌ・ハガティエさんという若い女性が、荒廃したニューヨークのタイムズ・スクエア・ホテルを何とか再生したいと考え奮起しました。NPOを設立して、新聞社、ニューヨーク市、企業を巻き込み、40億円の資金を集め、再生プロジェクトを開始します。低所得者向けのアパートの建設、職業訓練、自立支援のプログラムを実施し、貧困、失業といった社会問題を抱える地域を見事に再生したのです。現在では民間デベロッパーもしのぐほどの経済規模を誇り、すでに職員数は170人を超え、2002年の総資産は20億円にも達しています。(齊藤禎の「社会起業家」より)

しかしながら、ここで大切なことは、売上げや人員といった面での規模の拡大が目的ではありません。いかに、街を再生したか、多くの人の失業を救えたかというように問題解

決や社会に価値を提供できたかということが重要であり評価される点なのです。

社会起業家の存在

このような社会的活動を事業主体とする組織は、EUにおいては、社会的企業という形で数多く見られるようになってきました。

これらの組織に共通する点は非営利組織でありながら、ビジネスの手法を用いて、主体的に事業運営を行い、経済活動と社会活動を両立可能としている点です。そこには、使命感に加え、優れた解決力を持ち、リーダーシップを発揮する市民の存在が目を引きまします。

このように非営利組織ながら卓越したビジネスセンスで社会的な事業を継続的に運営している起業家のことを「社会起業家」と呼びます。

社会起業家という言葉は、1997年にイギリスで初めて取り上げられたもので、その歴史は本当に浅いものです。しかしながらその存在感は日を追うごとに増えています。それは先のアメリカの事例で見られるようにその事業内容が社会性を持ち、教育や職業能力の開発や荒廃した街の再生といった社会の問題解決に力を発揮するからです。従来は、社会的事業は、政府や公共が果たす役割と考えられてきました。一方、社会起業家が提供するサービスは、きめ細かいニーズに対応したり、人道的見地による配慮など、受け手に視点を置いたサービスが特徴です。すでに、イギリス政府では社会起業家の力を活用しようという動きもあり、多いに期待されています。

ムハマド・ユヌス氏の挑戦

このような中、昨年の秋にノーベル平和賞を受賞したバングラディッシュのムハマド・ユヌス氏の活動は社会的事業と企業運営の両立を世界中の人々に印象づけました。ユヌス氏はバングラディッシュの元経済学者でバングラディッシュの飢饉をきっかけに貧困層を救済する実践的な銀行業務を起しました。このグラミン銀行では、貧困層の人々に対して無担保でお金の貸付を行うマイクロクレジットという事業を行っています。対象とするお客さんには、貧しく、物乞いをしていた人や文字が読めないような女性たちもいます。小口の現金を女性たちに無担保で融資し、借り手は5人一組となり、返済計画や報告をグループ単位で行います。これまでに650万人のバングラディッシュの人々が融資を受けて、返済率は98%にものぼります。

この融資は、貧しさゆえに、自立の道から閉ざされた女性たちに様々な可能性をもたらしました。例えば、ミシンを購入して洋裁店を開いたり、雑貨店を営む女性たちも誕生しました。女性たちは、生活の設計を自ら行い、自立への道を拓くことができたのです。現在ではこのマイクロクレジットは60カ国のアジア、アフリカに広がっており、“排除された人々”にとって受身の立場から脱する機会をもたらし、貧困の解消、能力開発といった面で多大な貢献を果たしています。

より良き社会へ向って

さて、これまで見てきたようにビジネスから財団活動へ向うビルゲイツさん、社会起業家のハガティさん、ノーベル平和賞のユヌス氏と最近の一連の出来事は、一つの方向性を私たちに示している気がします。それは、いつの時代においても、社会は一方の極に引き寄せられてしまうものでも無く、清濁あわせ持ちながらもゆっくりと、より良き世界へと歩み続けているのではないかということを感じさせます。

そのことは、突き詰めてみると、人間一人ひとりが生まれながらに持っている“仏性”あるいは“真善美”という心のあり方が、危うい状態においても、均衡へと向う力をもたらす源泉ではないかと思うのです。これまでは個人がこの源泉を持っていてもよほどの使命感を持たない限り、社会への実行力にはなりえなかったわけです。そのような実行力は、権力を持つ人や裕福な人でなければ実現しにくい傾向にありました。しかし、個人が自分を発信し、人々がつながりやすい時代に入り、より小さな個人がその実行力をもつ可能性が高まってきたと考えられます。それは個人が社会に向って、自分を発信したり、表現することがいともたやすくできるようになったからです。

そのことは、人が思っていることは、具現化しやすくなったということにもつながると思えます。

このような時代だからこそ、心で思うことを意識したり、“より良き社会への願い”や“明るい未来を想像する”ことの大切さを認識する必要があるのかもしれないね。新春ということで、新しい潮流についてのお話させていただきました。

今年も、ユビキタス時代の社会探訪を読者の皆様とご一緒にできることに感謝の気持ちをこめて、本年もよろしく願いいたします。

みなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

2007/01